



宮城県仙台二華中学校・高等学校
Miyagi Prefectural Sendai Nika Junior & Senior High School

Super Global High School SGH

SGH

NEWSLETTER

Vol.4
2015
平成27年10月2日

発行 宮城県仙台二華中学校・高等学校
〒984-0052 宮城県仙台市若林区蓮坊1丁目4番1号
<http://www.nika.myswan.ne.jp/>

Contents

1. 講師紹介
2. メコン川フィールドワーク実施報告 アンコール遺跡編
3. メコン川フィールドワーク実施報告 トンレサップ湖編
4. グローバルリーダー養成講座実施報告

講師紹介

ここでは、本校のSGHで継続的に世話になる講師の先生をお一人ずつ紹介していきます。

今回はこれまで本校で非常勤講師を務めてくださいましたタイ人のWeerayuth Pratoomchai(通称Ong)さんをご紹介します。Ongさんは12月からタイのSrinakharinwirot Universityで講師として働くため、9月28日に帰国されました。従って、これが皆さんへのOngさんからのお別れのメッセージになります。

I am very pleased since I got a great opportunity to do my doctoral program here Tohoku University, Japan, over a period 2012-2015. From Junly 2014 to September 2015, Sendai Nika High School offered me a remembering opportunity to work at the school for part-time job. My duty was to discuss/ explain to high school students who were going to investigate water resource issues in my home country (Thailand) and the Mekong River basin. It was a fantastic learning experience for me as well. So many questions that were raised reflect how Japanese views through students in my

class looking at and focus on water issues as well as ideas and solutions suggested. For example, Thai Toilet and water supply especially in remote areas are the spots among students interested. It is a really simple question; however, it is so difficult for me to explain that to students since there are very wide standard of living in Thailand. When I was the same age as them, I never asked such kind of basic things to me myself. I feel very ashamed to say this. According to students' ideas, I am no surprise why Japan is one of the leading country in the world even this area faces with huge natural disasters. This part-time job opened my eyes to see the Japanese education system which is the key of Japanese revolution. I will not keep this invaluable experienced with only me; my friends, colleagues and so on through a word of mouth and social network will know this for sure. There are lots of senseis and officers at Nika, unfortunately there is no space to list all their names, who are endless support me and interested in my class. I have nothing to compensate what they did for me accept my sincere thanks and promise to support their work even I am not in Sendai. Time goes so fast and all good things come to an end, so allow me to say in Thai “Khob Khun Krub and Sawadee Krub literally translate into Japanese Domo Arigato Gozaimashita and Konnichiwa” at the end.

With the best regards,
Weerayuth Pratoomchai (Ong)



SGH Field Work 平成27年度第1回メコン川フィールドワーク実施報告(中編)

◆ アンコール遺跡群(シエムリアップ/カンボジア)

8月6日、私達はカンボジア最大の観光地である世界遺産「アンコールワット」を訪れた。上智大学アンコール遺跡国際調査団、遺跡修復工事所長でありカンボジア人材養成センターの所属である三輪悟先生にご同行いただき、現地でアンコールワットの修復に携わる先生の視点からアンコールワットについての解説を受けながら世界遺産を見学する、貴重な時間を過ごした。私達のカンボジア滞在をサポートしてくださった現地ガイドさんからも、幼いころから現地で生活してきたからこそその解説を受けることができ、観光で訪れるだけでは味わえない、濃密で興味深い見学となった。

また、三輪先生の日ごろの修復事業についての講義も受け、アンコールワットがいかんにして修復され、どのようにして後世へと受け継がれていくのかを知ることができた。今回のFWがなければ、私は世界的に有名なアンコールワットの参道が崩壊の危機に瀕し、その修復のために日本の職人や現地の技術者の心血が注がれているということも知らないままだっただろう。世界の水問題を調査する上で、「水」というキーワードから派生して様々な問題や厳しい現状を知り、考えることができる。そんなFWの側面を垣間見ることのできた1日だった。(担当：堀江美羽)

案内して頂いた三輪先生へ清水桃奈さんがお礼のメッセージを送ったところ、以下の返信を頂きましたのでご紹介します。



アンコールワット

<清水さんから三輪先生へ>

先日はお忙しい中、一日中私たちに付き合ってくさんの説明をいただき、ありがとうございました。初めてカンボジアを訪れ、世界遺産となっているアンコールの遺跡群を生で見ることができたのは本当に嬉しかったです。

観光客が増えている今、遺跡の修復は逃げられない問題でもあり、大変な作業だと思っています。シートの色の問題や、参道にある足の形の石の問題など、観光地ならではの問題も多く感じられました。

三輪さんもおっしゃっていましたが、大切なのはカンボジア人が自分自身で遺跡を直すことだと思います。日本の技術を現地の若者に伝え、彼ら同士で共有していくことでカンボジアの技術も高められ、遺跡をよりよい形で維持できるのではないかと感じました。

「教えようとする人、学ぼうとする人がいれば言葉が通じなくても意思疎通ができる」という三輪さんの言葉が、強く印象に残っています。

これからも現地の人たちと共にアンコールワットの参道修復を続ければ、さらにたくさんの人を魅了できるようになると思うので、ぜひお身体に気をつけて頑張ってください。

私が大人になったら、またカンボジアを訪れてアンコールワットについて三輪さんから学んだことを友達や家族に教えながら観光したいです。本当にありがとうございました！



三輪先生に説明を受ける

<三輪先生からの返事>

上智大学アジア人材養成研究センターの三輪悟です。先日は丸一日の時間を私に下さりありがとうございました。お見せしたい場所や物は他にもたくさんありますが、時間の都合で割愛せざるを得ず、悩ましいものがございました。私が願った事を一つ挙げるとすれば、本物を自分の目でしっかりと見て欲しい、ということでした。

高校生という若い時代に外国であるカンボジアの世界遺産アンコールワットを訪れることができることはとても幸せなことだと思います。私が初めて外国を訪れたのは20歳の時でしたから、皆さんが羨ましく思えます。

是非感性豊かな若い時に、お金や時間の都合がつく限り、少々無理を押してでも、世界を広く見ることをお勧めしたいと思います。世界の文化や価値観は想像をはるかに超えて多様で一筋縄ではいかないことを、体で感じる事が大切です。「感動する体験」を一つでも多く積み重ねることで、皆さん方の将来がより豊かなものになると信じています。

是非またカンボジアのアンコール遺跡にも来てください。皆さんの感性に響く何かをきつとご紹介したいと思います。自身が全力で取り組める何かを探してください。もちろん、学業にも全力で取り組む事を忘れずに。それでは、再会の日を楽しみに。アンコールの地でお待ちしております。



トンレサップ湖の家と行き交うボート



トンレサップ湖の住民へのインタビュー



飲料水



水を浄化するミョウバン

◆ トンレサップ湖 (カンボジア)

8月7日は、カンボジア最大の淡水湖であるトンレサップ湖を訪れた。多くの水上生活者が暮らす湖の水は、生活排水の影響で想像以上に汚れ、黄土色に濁っていた。そして、住民の小さな漁船や観光客用の大きいボートが絶えず行き交うため、船のエンジン音がうるさく、時には隣で話す人の声が聞こえないほどだった。この環境の中で毎日暮らしているのかと考えると、信じがたい状況だった。滞在時間は2～3時間と短かったが、2グループに分かれて合計5軒の家でインタビューと水質調査を行った。飲料水は、32リットル入りのボトルを湖にある水上商店で購入している家庭がほとんどで、健康被害はなく、概ね満足している様子だった。また、洗濯や水浴びの際には、湖の水をミョウバンで自ら浄化したものが使われていた。黄土色の湖の水に30分間ミョウバンを入れるだけで透明にするシステムは、とても興味深かった。彼らの収入は決して高いとは言えないものであるが、きれいな水の確保も含めて何とかやりくりして生活していた。これから、彼らの負担ができるだけ小さく、低コストでできる飲料水の確保についてさらに研究を進めていきたいと思う。

(担当：清水桃奈)

グローバルリーダー養成講座 ～Empowerment Program at Sendai Nika～

8月10日(月)から14日(金)までの5日間、本校でグローバルリーダー養成講座が行われ、中学3年生15名と高校1年生17名、2年生1名と仙台白百合学園高等学校の高校1年生2名の計35名が参加しました。

この養成講座は、仙台二華SGHの3つの取り組みの1つである「言語活動」の一環として行われたもので、グローバルマインドや英語によるコミュニケーション能力を身につけることを目的としています。

今年は、ファシリテーターとしてGuy Smith先生(ニュージーランド出身)を、チューターとしてカリフォルニア大学の大学生8名を招き、経験豊かなGuy先生の進行により、生徒5、6人に1人のチューターがついて、英語でディスカッションなどを行っていかたちで行われました。

1日目は、簡単な自己紹介と自分のパートナーの紹介から始まり、このプログラムでの目標をグループで話し合いました。最後に、人生におけるポジティブなスローガンを考え、ポスターにしました。生徒たちはなぜそのスローガンにしたのかを意識して取り組みました。

2日目は、Leader役、Reviewer役、質問者役を分担して話し合いを進める練習をしました。相手の意見に対して自分がどう思っているのか、しっかりReactionをとって伝える大切さを実感しました。午後には、校舎内をグループで回り学校をより良くするためのプロジェクトをグループで話し合い、発表を通して全体で議論しました。



自己紹介の様子



グループで話し合っている様子



全体写真

3日目は、ノーベル平和賞受賞者のマララさんのスピーチをもとにリーダーシップについて考えました。また、高齢者にとっての理想の社会についてグループで話し合い、グループでドラマを作りました。最終日の発表の際に必要なスキルを磨く良い機会になりました。

4日目は、3日目に作ったドラマを発表しました。各グループともに高齢者と若者が交流する機会をもち、高齢者の知恵を若者が学んでいく構図が描かれていたことが興味深かったです。また、世界の水問題について話し合いました。

最終日は、「プログラムを通して学んだ事」を全員の前で発表しました。発表前の準備でチューターから細かいところまでしっかり見てもらい的確なアドバイスを伝えてもらったおかげですばらしい発表になりました。

5日間楽しいことばかりではなく、大変なこともたくさんあったと思いますが、終了後に達成感と充実感を得たと思います。全員が大きく成長できた5日間でした。



プレゼンテーション



終了後

《受講した生徒の感想》

- ・はじめは不安でいっぱいでしたが、段々と自信が持てるようになり、積極的に話し合いに参加できるようになった。
- ・英語が上達したというよりは話そうという気持ちを持ったので、たくさんコミュニケーションがとれるようになったと思う。
- ・英語で5日間きちんと活動できるか不安でしたが、今では英語圏の国に住みたいと思うほどになった。
- ・失敗を恐れないというのはよく聞かすが、今回はその大切さを身をもって感じられた。普段は自分から手を挙げることはないが、このプログラムでは手を挙げて皆の前で積極的に発表できるようになった。